



## 衛生動物だより

No. 57

### トビケラ

川沿いにある建物の壁や天井に群がる虫たち（図1）。一見ガのようにも見えますが、実は「トビケラ」という虫なのです（図2）。今年の4月には、トビケラに関する相談が3件ありました。いずれも住宅街の河川から大量発生したトビケラが、道路や壁、洗濯物について困るという内容です。

今回の衛生動物だよりでは、このトビケラについてお話したいと思います。

### トビケラについて

トビケラはトビケラ目に属する水生昆虫で、水中で卵を産み、一生のほとんどを幼虫として川の中で過ごします。成虫の寿命は数日から数週間と短く、大量発生しても時間経過とともにみられなくなっていきます。ただし、河川の状態によっては成虫が連続して出現する地域もあります。

水質汚濁に対して弱い種から強い種までさまざまなトビケラが存在するため、その幼虫は水質汚染の指標動物として利用されます。

### トビケラによる被害

トビケラは水中の有機物を食べて川の浄化に役立っており、また「いさご」という名前で溪流釣りの餌としても親しまれています。

一方宇治市等では、大量発生して水力発電所の効率を低下させる害虫として有名です。また不快害虫のひとつとしても知られています。トビケラは人を刺したりして直接人に危害を加えることはありませんが、川近くの家の光や街灯などに集まり、苦情の原因となることがあります。

### トビケラの防除

トビケラは流れのある水中に棲む昆虫であり、根本的な対策はありません。流水中に薬剤を散布しても、有効成分が希釈されてすぐに効果を失います。また、残留性の高い薬剤を使用した場合、河川の他の生物に甚大な影響を与えます。さらに、たとえある地域のトビケラを駆除したとしても、すぐに上下の流域から同種が再流入すると考えられます。

防除策として、建物への侵入防止、家屋壁面への薬剤散布、電撃殺虫器による成虫の駆除に、ある程度の効果が認められます。また、部屋や屋外の電灯をLED照明に交換することで、飛来するトビケラの数を低減できる可能性があります。

### トビケラの鑑別

成虫の翅（はね）が短い毛に覆われている点が特徴です（図3）。体長は5～40mm程度、触角は基本的に棒状、前翅の形は楕円あるいは逆三角形に近く、3対の胸脚はよく発達し歩行に適します。



図1：建物壁に大量発生



図2：ウルマーシマトビケラ



図3：短毛に覆われた後翅